

平成23年度 学校経営計画

◇構成

児童数	74名			
学級数	8学級	通常学級	6	特別支援学級 2 (知的・肢体)
職員数	19名			

◇児童の実態

本校の児童は、豊かな自然と、学校教育に協力的な地域、保護者に包まれた教育環境の中で、明るく、素直で、優しい心を持ち、学習規律も概ね良好で、基礎的・基本的な学習内容はほぼ定着している。しかし、小規模校で少人数による学級では、切磋琢磨し集団で学び合う場面が少なくなりがちで、主体的に学ぶために必要な思考力、判断力、表現力などの活用力が弱く、限られた友だちとのかかわりの中で自己肯定感の弱い児童の多いことが課題としてあげられている。

そこで、学校・家庭・地域のさらなる共育連携の下、「知・徳・体」のバランスの取れた教育を実践し、「夢を持ちたくましく生きていく力」を身につけた児童の育成を目指したい。

学校づくりの基本理念

～子ども、保護者、地域から「信頼される波佐谷小学校」をめざす～

☆かかわり合い、学び合い、高め合う教育活動の中で「知・徳・体」のバランスの取れた子どもを育てる。

☆子どもに夢を持たせ、夢を実現させるために「子どもにとってどうなのか」を一番に考える。

☆「おかげさま」「おたがいさま」「ありがとう」の心を忘れず、職員一丸となって組織的な学校運営に取り組む。

☆教師としての資質(情熱・使命感・専門性)、総合的な人間力の向上に努め、共通理解、共通実践を推進する。

☆子ども、職員、保護者、地域の方から「来たくなる学校、会いたくなる学校」「私たちの波佐谷小学校」「心のふるさと」と思われる学校にする。

☆地域、家庭との共育連携を深め、危機管理意識を持ち、「大切な宝物」を託されていることをいつも忘れずに励む。

1. 教育目標

知・徳・体のバランスのとれた意欲的で自立した「波佐谷っ子」を育てる
～かかわり合い、学び合い、高め合い～

めざす児童像

- ・学ぶ子(知) 意欲的にかかわり合い、学び合い、高め合う子
- ・やさしい子(徳) 礼儀正しく、思いやりがあり、正直な子
- ・働く子(体) 健康な体と心を持ち、最後までやりぬく子

めざす学校像

- ・子どもたちの笑顔が溢れ、「大好きな私たちの波佐谷小」と思える学校
- ・子どもたちが夢を持ち、楽しく、安全で、安心して学べる学校
- ・保護者、地域と連携し、信頼される開かれた学校

めざす教職員像

- ・自らの指導力向上に努め、互いに高め合い協力し合い、教育目標の具現化に向けて組織的に取り組む教職員
- ・子ども一人ひとりを大切にし、子ども、保護者と心を通い合わせ、信頼される教職員
- ・地域の人々と連携し、地域を愛し、地域と共に歩む教職員
- ・明るい笑顔(SMILE) 創意工夫(STUDY) 思いやり(SINCERITY) 迅速(SPEED)の4Sを備えた教職員

2. 教育方針

生徒指導の三機能化を基盤にする

- | | | |
|----------|---|---------------------------|
| ・自己存在感 | … | 「かけがえのない自分」と思える自尊感情を持たせる。 |
| ・自己決定 | … | 「自分で自分のあり方」を考え自己の行動を決める。 |
| ・共感的人間関係 | … | 「認め合い、理解し合う」ことで、やる気を育てる |

3. 中・長期経営目標

(1) 児童に関する目標

- ① 基礎・基本の確実な定着から、さらに主体的に学び、考え、判断し、表現する力を育む。
- ② 挨拶・返事・きまりを守る等、基本的な生活習慣や規範意識を当たり前として素直に受容できる児童を育てる。
- ③ 自らの良さを認め、自信を持って最後までやり抜くたくましい体と心を養う。
- ④ 読書活動・言語活動・ふるさと教育の推進により、読解力・想像力に加え心豊かで温かい心を培う。

(2) 教職員・学校組織等の在り方

- ① 道徳教育を核に、児童一人ひとりを大切に心した心の教育を推進する。
- ② 児童への温かい目線、言葉かけに心がけ、全職員が「学校担任」の意識の下、「報・連・相」を合い言葉に危機管理意識を持って、教育活動に取り組む。
- ③ 自らの指導力（授業力・生徒指導力）の向上を図り、互いに高め合い協力し、計画－実践－評価－改善（PDCA）を繰り返しながら、教育目標の具現化に組織的に取り組む。
- ④ 明るい笑顔（SMILE）、創意工夫（STUDY）、おもいやり（SINCERITY）、待たせない（SPEED）の4Sをめざす。

4. 短期経営目標

(1) 組織的な学校運営

- ・教職員が組織の一員として自覚と責任を持って学校運営に参画できるように校務分掌組織を整理し、月1回の企画委員会・分掌部会を定例化し、機能化させることで、組織的・創造的・効率的に取り組む。
- ・低学年部会、高学年部会を必要に応じて設け、振り返りや、改善策を講じる。

(2) 確かな学力の育成

- ・少人数の良さを活かしたかわりのある学習形態や言語活動を取り入れた授業改善に努め、児童の思考力・判断力・表現力等の活用力を高める。
- ・授業の中に、読み取る・考える・伝え合う・書く・振り返る活動を設定し、学習内容の80%以上を全児童が理解できるような「わかる授業」づくりに努め、自学ランドでは個に応じた学習の補充をする。
- ・週案簿の内容充実にも努め、計画的な授業づくりに取り組む。

(3) 豊かな心の育成

- ・道徳の授業では、学校重点項目を各学年同時期に指導し、道徳教育推進教師を中心に資料やゲストティーチャーの開発に努める。また、各学級1回以上「道徳」の授業を保護者に公開する。
- ・本校の恵まれた豊かな自然と人材を活かした体験活動を全教育活動を通して計画し、ふるさとを知り、ふるさとを愛し誇りに思う豊かな心を育成する。

(4) 健やかな体の育成

- ・体育の時間はもとより、昼休みの45分間、児童が主体的に楽しみながら力いっぱい運動ができるような企画を児童会等で計画的に設定し、スポチャレや各種検定等にも積極的に取り組む。

(5) 家庭・地域との連携

- ・共育連携（共に育てる）の下、学校・家庭・地域が三位一体となり「めざそう挨拶ウルトラ100」「学年×10分家庭学習」「めざそう自学300冊」「めざそう10000冊読書」をキーワードに、共通理解・共通実践に取り組む。

